

# 一般情勢報告

日本労働組合同盟  
九州聯合會長 伊藤 卯 四 郎

昭和八年度に於ける九州聯合會の過去一ケ年の運動を回顧すれば言ひ知れぬ感慨無量を感じざるを得ぬ。

國際的に各國の資本は國家主義經濟對立の必然的結果として、資本主義の最後の競争打開のため、最悪の労働諸條件の強制壓迫を最高限度にし、使用労働者数を最少限度にして、最高の能率をあげるためには國家の不安には何等の考慮をも拂はず、失業洪水の街頭へ更らに際限なく餓首者を送り出し、生産費を最低限度にするためには労働者の生活費を最低にし生存不安のドン底に引き下げてゐる。更らに資本家階級の狂態は労働組合の労働階級最底生活權確保の闘争を極度に恐怖し、労働組合の破壊、労働組合幹部の解雇に狂奔して、その毒牙をならしてゐる。特に、未組織労働者の労働組合組織に對する資本家の露骨なる壓迫は今、尙十年以前の舊態を持續して、その頑迷、無理解は常に言語に絶する暴戾なる行動を以て労働者の人間的自由と權利を否認し、労働者が産業に對する偉大なる協力者であることを理解せず、只だ資本家の奴隸として搾取と、酷使するばかりである。

わが九州聯合會はこの労働者の深刻なる不安と労働組合最悪の受難の一年を健實なる労働組合主義の旗の下に、労働者の人間的人格と労働者が産業に對する偉大なる協力者であることを認め、労働組合に理解を持つ事業主に對しては健實なる労働組合の持つべき協力と義務と責任を果して來たが、頑迷、無理解なる資本家に對しては労働者の生活權を提げて、徹底的な闘争

産業

を以て戰つて來た。この闘争の尊き犠牲者は或は職を奪はれて職場から追放され、或は捕はれて今尙牢獄に呻吟してゐる。

國際的國家主義對立思想の結果は過去一ケ年の日本を深刻なる社會的、思想的不安のドン底に陥れた。極左共產主義運動は自からの巨頭運をその先頭に立て、その指導精神の認識不足と破綻から方向轉換の醜態を曝露した。更らに、確固たる主義信念なき者の常として、國際的國家主義對立の潮に弄ばれて、流行性の反動ファツショ運動が頻々として攪擾し、今や數百に余るファツショ團體の看板が掲げられ、恰も反動全盛の觀を呈してゐる。彼等ファツショ運動者は口を開けば忽ち日本主義、國家主義、愛國主義を云々して大發見の如く宣傳してゐるが、その正体は日本主義の通俗的美名を看板にして没落する資本主義の延命を策し、労働者を永遠に資本の奴隸にせむとするものである。更らに彼等は國家主義を看板にして、労働組合を政治闘争の動員機關とし共產黨と何等異るところなき暴力革命を以て社會變革を策するものである。

かゝる思想の不安混迷の時代に處して、わが九州聯合會は健實なる労働組合主義を以て浮薄輕兆の共產主義運動並に反動ファツショと左右兩翼に戦ひ、この反動と受難の多端な時代にわれ等の戦線に些細の動搖、打撃のなかつたのは、全く、われ等の運動方針に何等の誤謬も破綻もない事証であつて、同志諸君と共に同様に堪へぬところである。健實なる總同盟精神に則り、總同盟か眞剣に努力して産婆役のごとき役割を勤めて結成された日本労働組合會議は健實なる労働組合主義の旗の下に今や三十萬の組織労働者を擁し、その實力と信用を通じ、日本労働組合會議の健實なる動向に依つて新日本の眞の改造が行はれねばならぬことが、この未曾有の反動と労働組合運動最悪の受難の試練に堪へて明白にされた。わが九州聯合會は多難なる九州の戦線に於て飽くまで健實なる労働組合主義の旗を守り奮地に労働階級解操の大道を一路邁進せねばならぬ。